

5月16日 署名やチラシを配り処遇改善の訴え

「介護ウェーブ」宣伝行動



多し時と比べ職員が3分の1、半分以下に減っている事業所がほとんどで訪問介護の将来が見えない厳しい状況です。

今、介護の現場は過酷な状態です。大きな原因が介護職不足で訪問介護ではたらく人材不足が深刻です。現在60歳台から70歳台で働く職員に支えられている訪問介護事業所がたくさんあります。

多い時と比べ職員が3分の1、半分以下に減っている事業所がほとんどで訪問介護の将来が見えない厳しい状況です。

国の政策として外国人労働者を増やす取り組みが進められていますが、その解決にはまだほど遠い状況です。

介護職を目指す若い人は減少しています。介護報酬が上がり、常勤として雇用ができれば給料が増えれば介護職員が増えると思います。

介護事業所の経営も悪化しています。2024年4月の介護報酬改定が実施されましたが、訪問介護の報酬の引き下げ、またその他の介護報酬も物価の上

昇に見あったものではなく、厳しい状態は続いています。

介護ウェーブ宣伝行動では、①利用者負担を軽減し、必要なサービスが受けられるようにすること ②訪問介護の基本報酬を早急に引き上げること ③利用料2割負担の対象者拡大またそれ以上の経済的負担の検討を行わないこと ④すべての介護従事者の給与を全産業まで引き上げること

訴えました。

街頭では私たちの訴えに耳を傾けてチラシを読みました。署名をしてください。その1筆は小さな1筆ですが私たちのためには大きな1筆になりました。

（介護老人保健施設 みみはら 北嶋 智恵）

介護国会行動

介護現場の問題を 直接国会へ訴え

5月27日「介護保険制度の抜本改善を求める署名提出集会」に参加しました。全国からたくさん

費用負担の軽減や介護保険点数の見直し」「現在元気で生活されている方にも、介護の現状をもっと知っていただく方法が必要」などを伝えました。議員

署名活動に賛同していただいた国会議員の挨拶では、地元選挙区内で既に介護難民の方がいて、遠方の事業所が支援している話に驚きを感じました。また、都内在住の実

私は、リハビリスタッフという立場ですが、安心して在宅生活を過ごすには、「利用者」「家族」「各職種」の連携が大切だと思っています。そのため、どの職種も人員不足にならないような制度設計が必須だ

その後、大阪選挙区の議員へ署名を渡しに行きました。3人の秘書・1人の議員に直接思いを伝えることができました。

今回の行動のように、介護現場の問題を直接国



へ伝える場があるのは、とても大切だと感じることができました。参加させていただきありがとうございました。（耳原訪問看護ステーション堺 西野 謙吾）

夏の合併号のお知らせ

いつも「とも・同仁会報」をご愛読いただきありがとうございます。

次回8月と9月が合併号になります。